



図3. 1 江戸川・旧江戸川【水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況】

表3. 1 近年の水質の状況

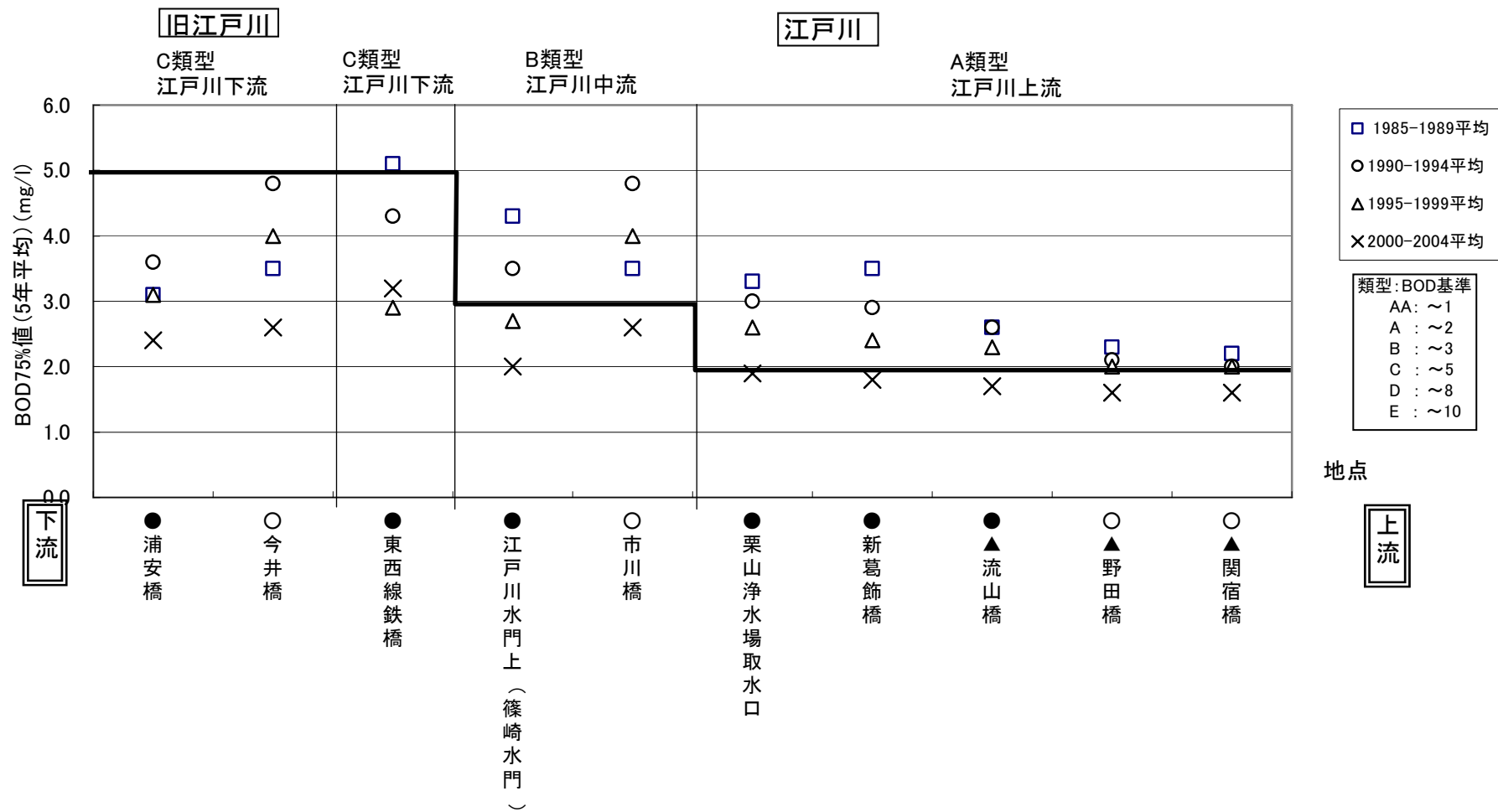
近年の水質状況(江戸川・旧江戸川)

対象	水域	類型	環境基準点	年度	BOD(mg/L)				基準	pH			DO(mg/L)				基準	SS(mg/L)				基準	大腸菌群数(MPN/100mL)			
					最小値	最大値	平均値	75%値		最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	最小値		最大値	平均値	基準	最小値		最大値	平均値	基準	最小値
河川	江戸川上流	A	流山橋	H15	1.0	2.0	1.5	1.7	2	7.2	8.0	6.5~8.5	7.6	13.0	10.0	7.5	4	98	16	25	3,300	33,000	17,000	1,000		
				H16	0.9	3.5	1.8	1.9		7.2	7.7		7.4	12.0	9.8		5	37	15		3,300	49,000	15,000			
				H17	1.1	2.4	1.5	1.6		7.3	7.7		6.8	12.0	9.6		4	51	15		2,300	49,000	16,000			
			新葛飾橋	H15	1.0	2.1	1.6	2.0		7.2	8.1		7.6	14.0	10.0		3	51	11		490	49,000	15,000			
				H16	0.8	4.6	2.0	2.0		7.2	7.7		7.3	12.0	9.8		3	59	12		3,300	49,000	15,000			
				H17	1.0	2.7	1.6	1.7		7.3	7.7		7.4	12.0	9.5		2	59	11		2,300	79,000	19,000			
		栗山浄水場取水口	H15	0.8	2.2	1.6	2.0	7.2		8.3	8.3		14.0	10.0	3		35	10	—		—	—				
			H16	1.0	4.1	2.1	2.2	7.2		7.7	7.6		12.0	10.0	3		24	11	—		—	—				
			H17	0.9	2.5	1.6	1.7	7.2		7.7	7.2		13.0	9.6	2		64	12	—		—	—				
	江戸川中流	B	江戸川水門 (篠崎水門)	H15	0.5	2.1	1.4	1.7	3	7.1	8.4	6.5~8.5	7.6	15.0	9.6	5	2	21	9	25	700	33,000	13,000	5,000		
				H16	0.9	3.3	2.0	2.5		7.2	7.8		7.0	12.0	9.6		3	24	10		1,300	130,000	19,000			
				H17	1.2	3.2	1.7	1.6		7.2	7.8		5.0	13.0	9.6		2	64	10		490	79,000	16,000			
江戸川下流(1)	C	東西線鉄橋	H15	0.7	4.8	2.1	2.5	5	7.6	8.2	6.0~8.5	5.0	13.0	8.1	5	2	15	6	50	—	—	—	—			
			H16	1.0	3.9	2.2	2.7		7.5	8.0		5.3	13.0	7.9		2	23	6		—	—	—				
			H17	1.1	4.1	2.3	3.2		7.6	8.5		4.9	14.0	8.1		2	17	8		—	—	—				
江戸川下流(2)	C	浦安橋	H15	1.1	3.7	2.0	2.4	5	7.2	7.6	6.0~8.5	5.2	9.7	7.9	5	2	23	11	50	—	—	—	—			
			H16	1.1	3.1	2.1	2.6		7.2	7.8		6.1	11.0	8.5		3	36	16		—	—	—				
			H17	1.1	2.4	1.7	1.8		7.1	7.8		3.7	10.0	8.1		2	34	14		—	—	—				

出典：公共用水域の水質測定結果

◎公共用水域の水質測定結果(平成15~17年度)

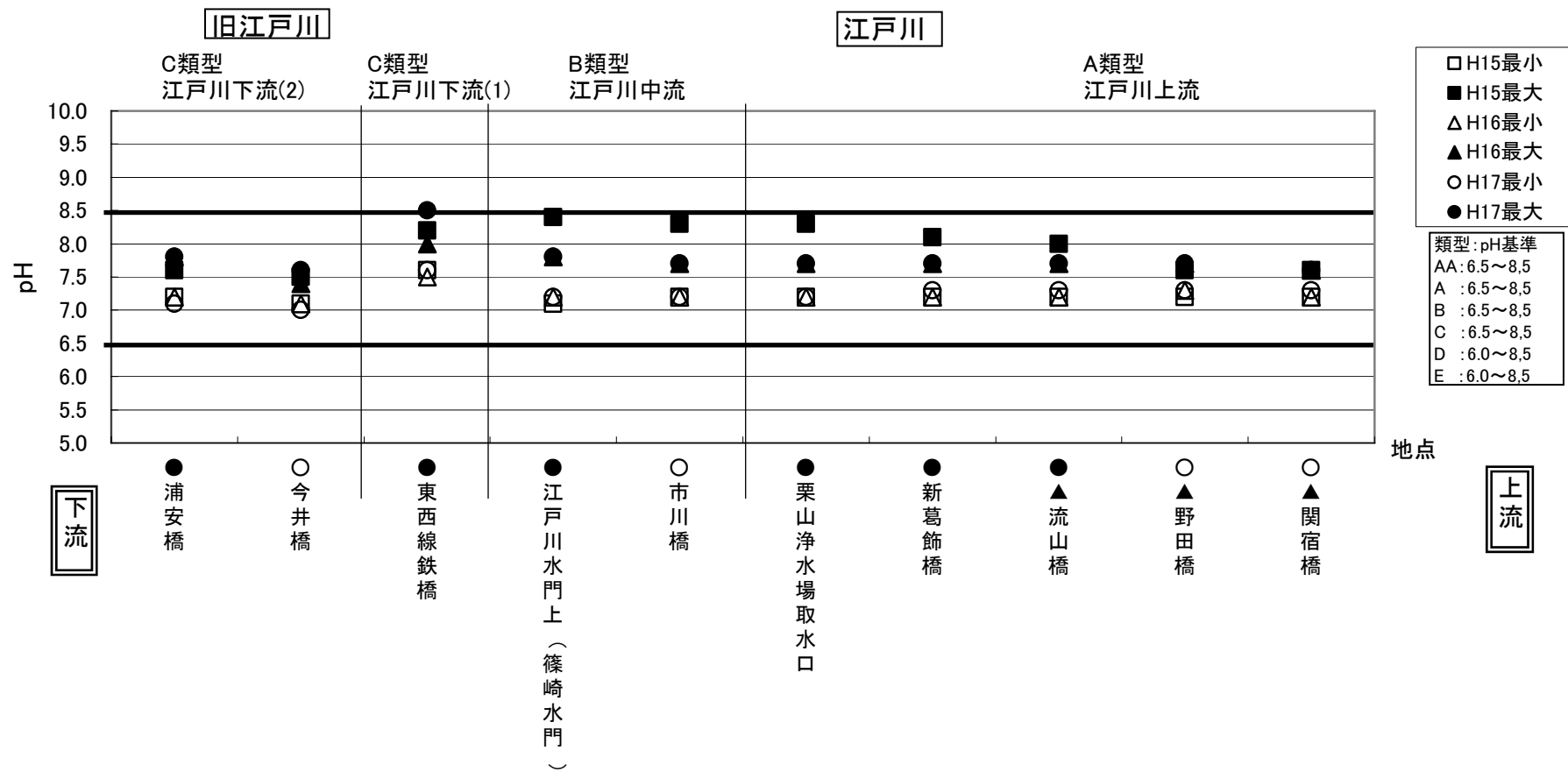
水質汚濁防止法の規定に基づき、全国の都道府県が毎年定める測定計画に従って、都道府県・水質汚濁防止法政令市のほか、一級河川のうち国の直轄管理区間については国土交通省地方整備局によって実施される。原則、河川は表層(水深の2割程度)、湖沼は表層(成層期には成層を配慮)、海域は表層・中層(必要に応じて下層)の測定結果である。



地点: 環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典: 公共用水域の水質測定結果

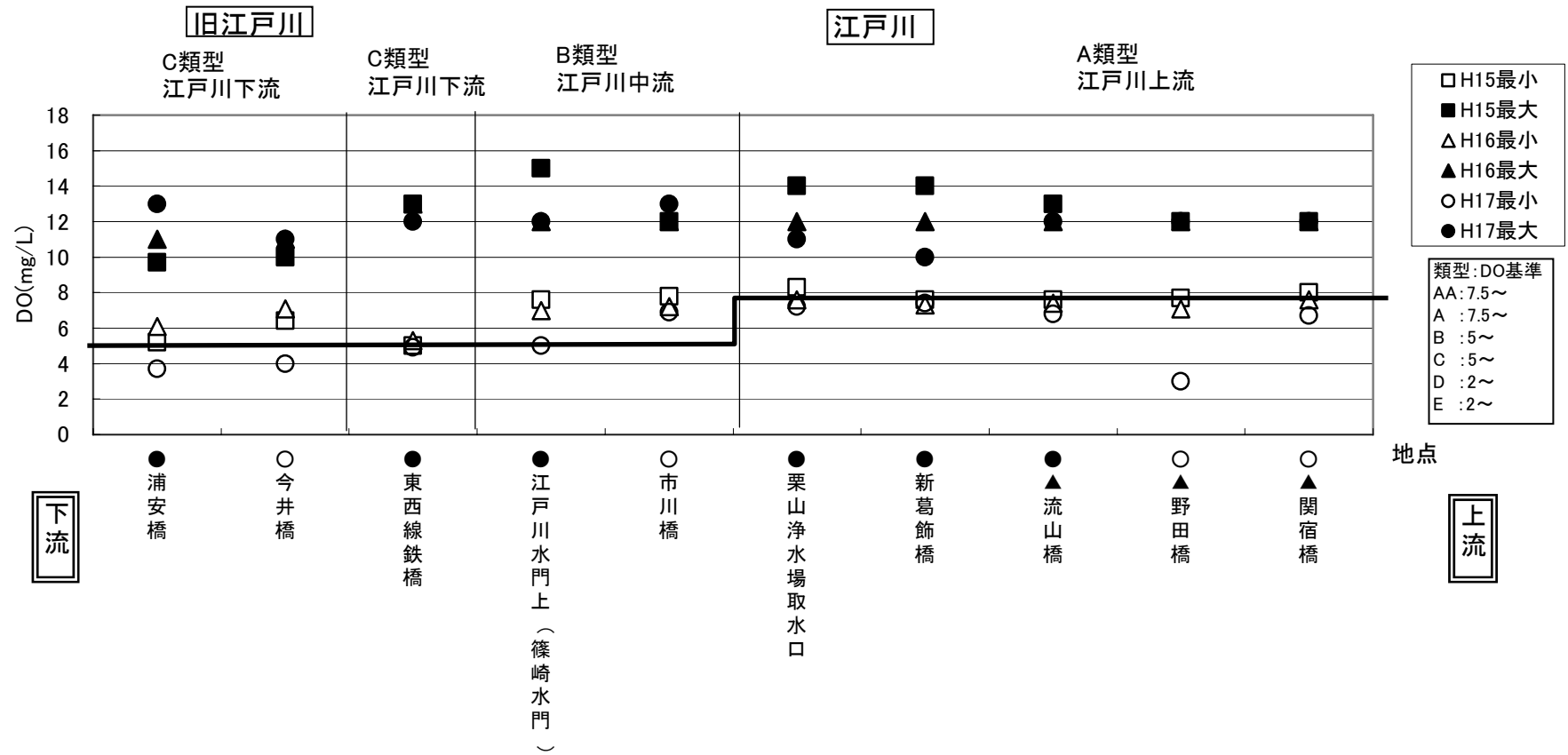
図3. 2 BOD75%値の水質縦断分布



出典：公共用水域の水質測定結果

地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

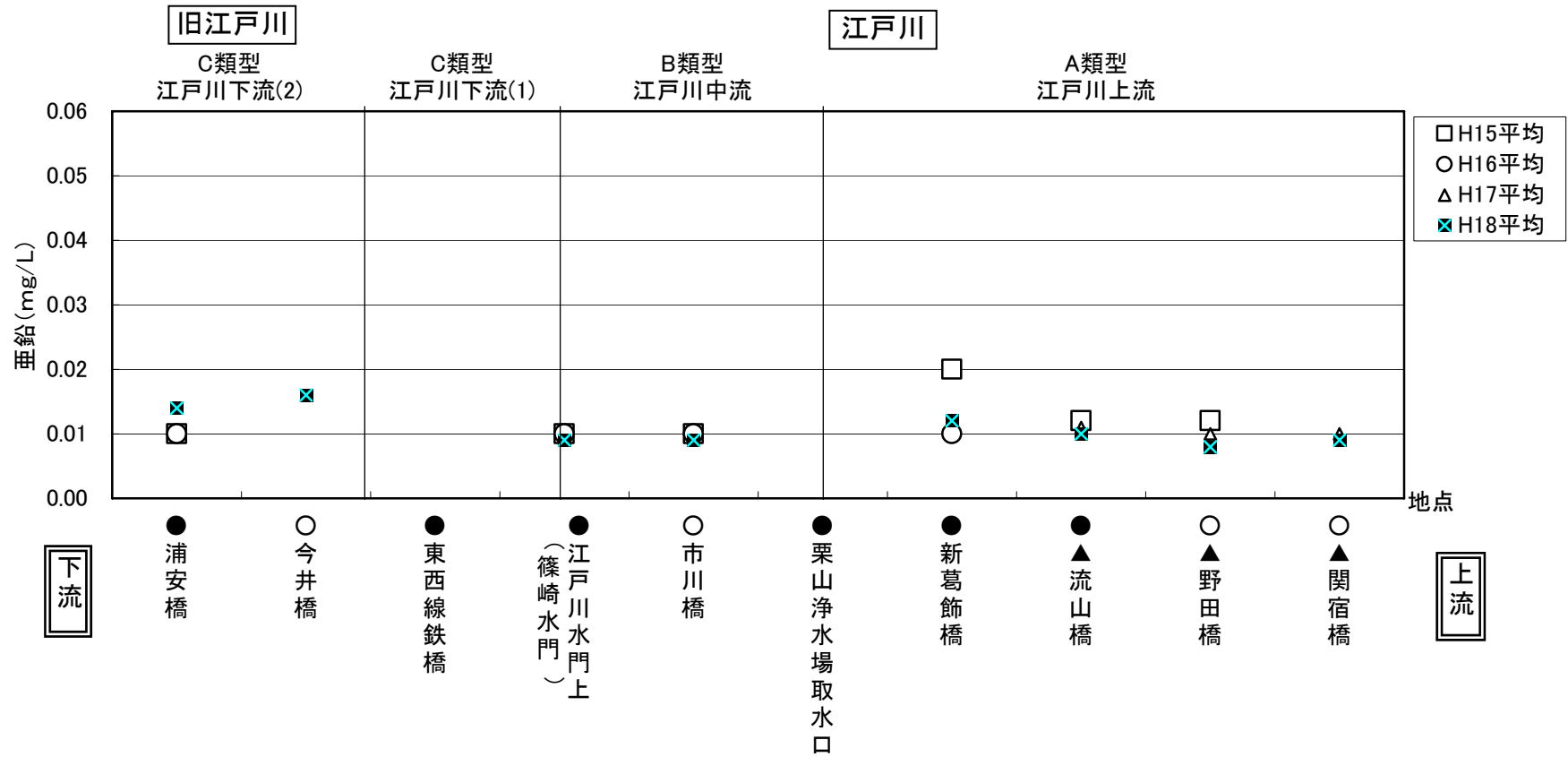
図3.3 pHの水質縦断分布



出典：公共用水域の水質測定結果

地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

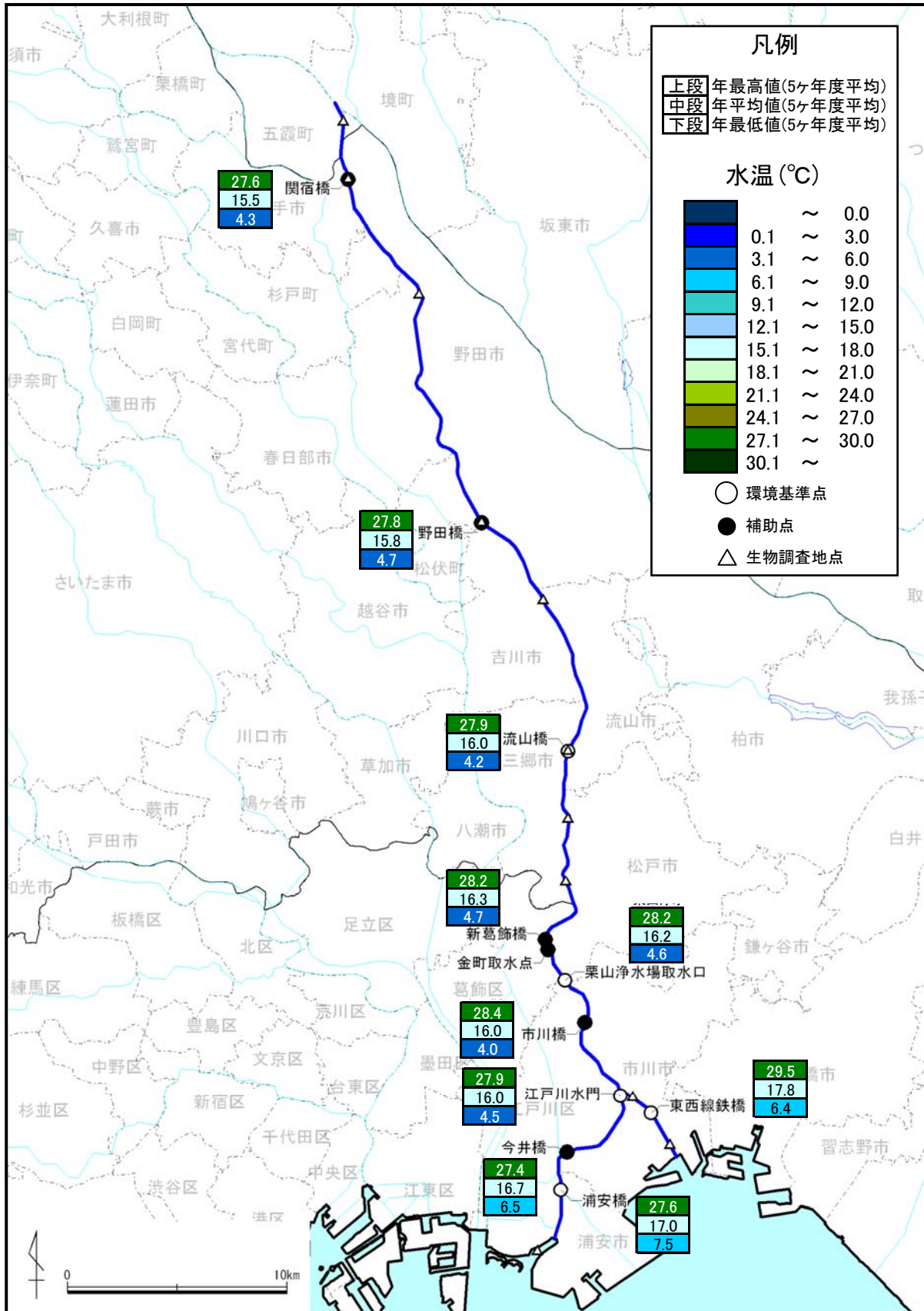
図3. 4 DOの水質縦断分布



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)
 ※年度平均値が<0.01、<0.03(定量下限値未満)の地点については、0.01及び0.03とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05の地点のデータは除外した。

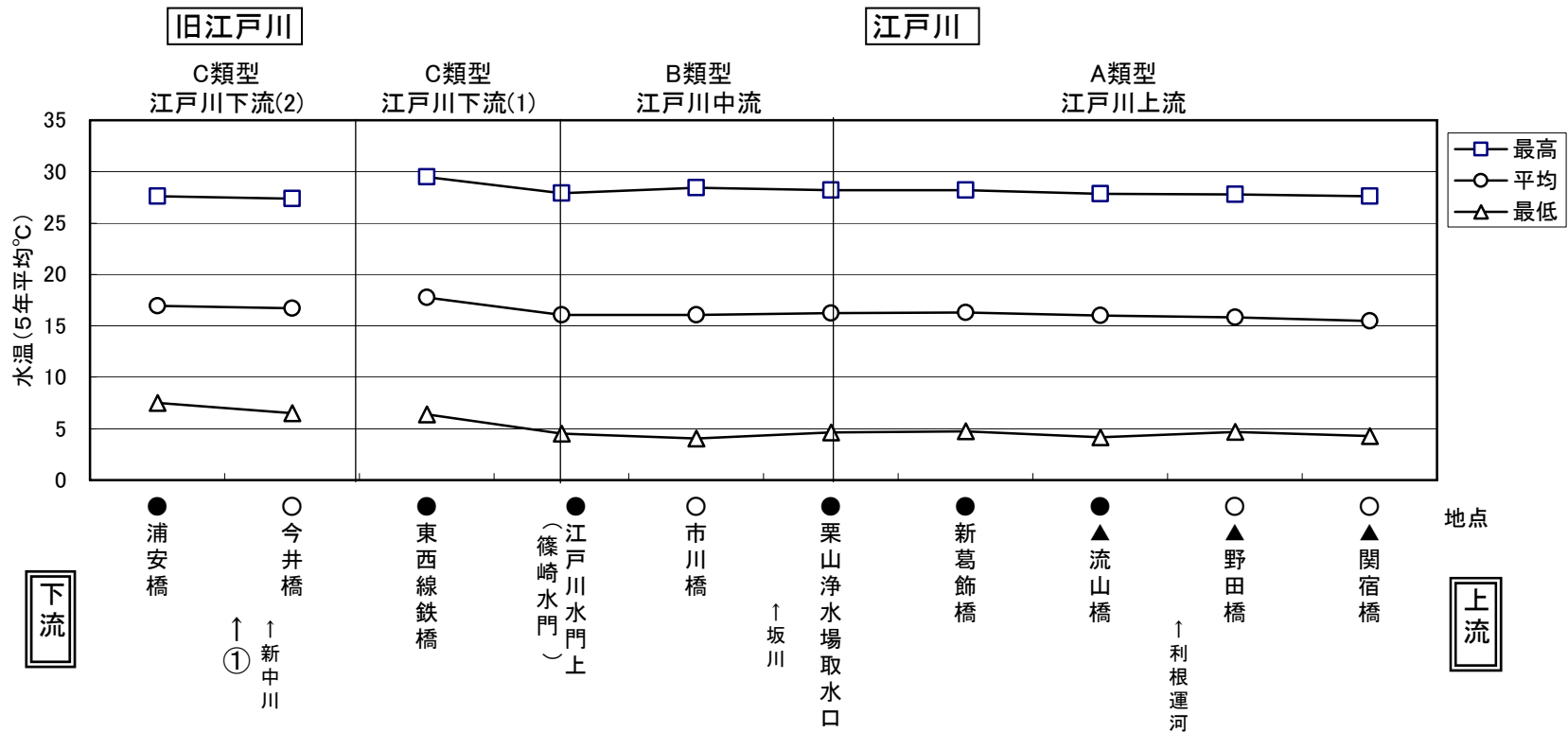
出典：公共用水域の水質測定結果

図3.5 鉛の水質縦断分布



出典：公共用水域の水質測定結果

図3. 6 江戸川・旧江戸川【水温】



No	河川	都道府県	処理場名	放流水質 (H16年平均)		放水量 (m ³ /s)	
				水温 (°C)	BOD (mg/l)	H16年	計画
①	旧江戸川	千葉県	江戸川第二終末処理場	23.7	2.4	5.37	5.37

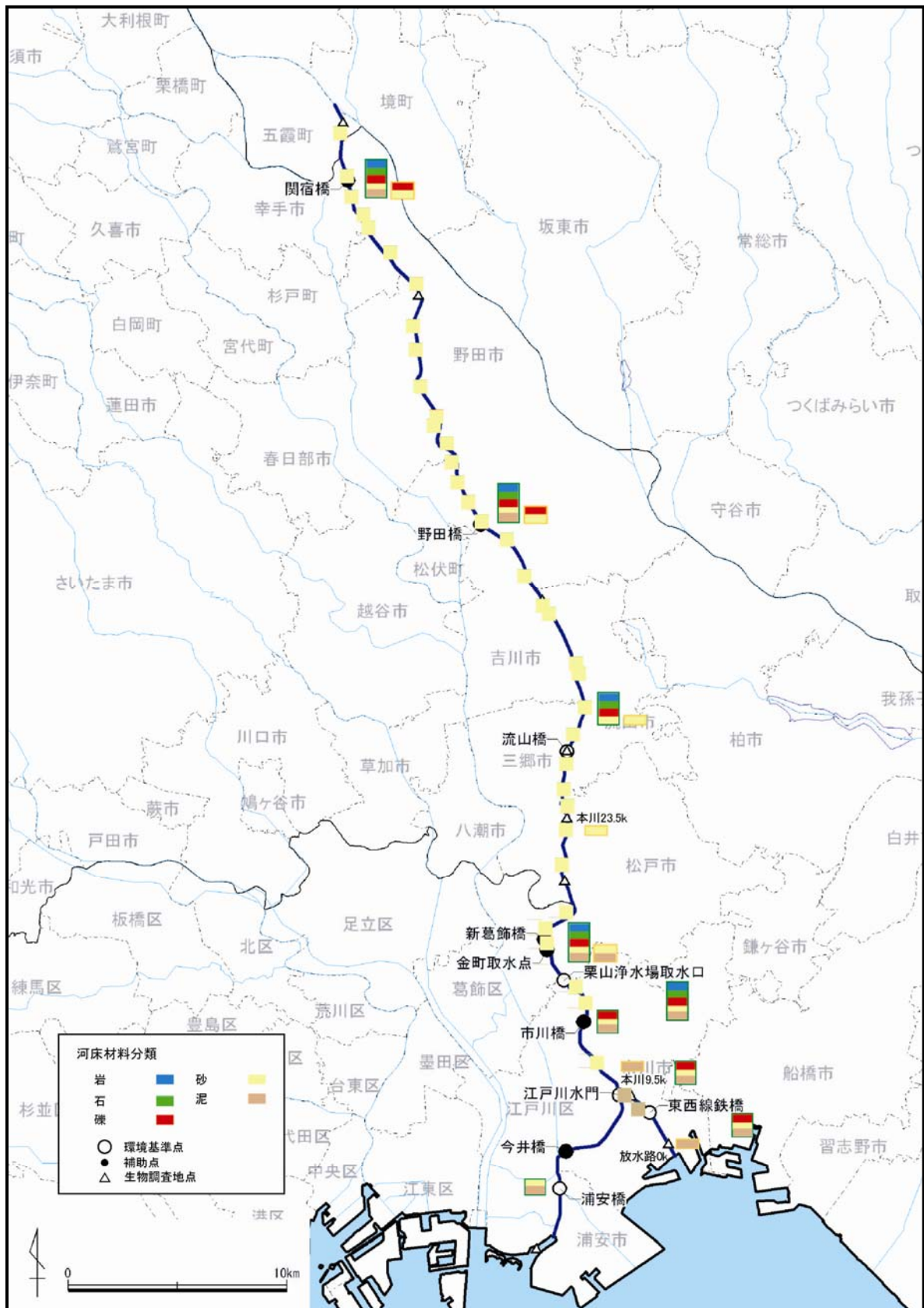
出典:平成16年度版下水道統計(行政編)

※最高・平均・最低は、平成12～16年度の公共用水域水質測定結果より、各年度において、月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、5か年でそれぞれ平均した値である。一部で月1回以上の頻度で計測していない地点がある。

出典：公共用水域の水質測定結果

地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

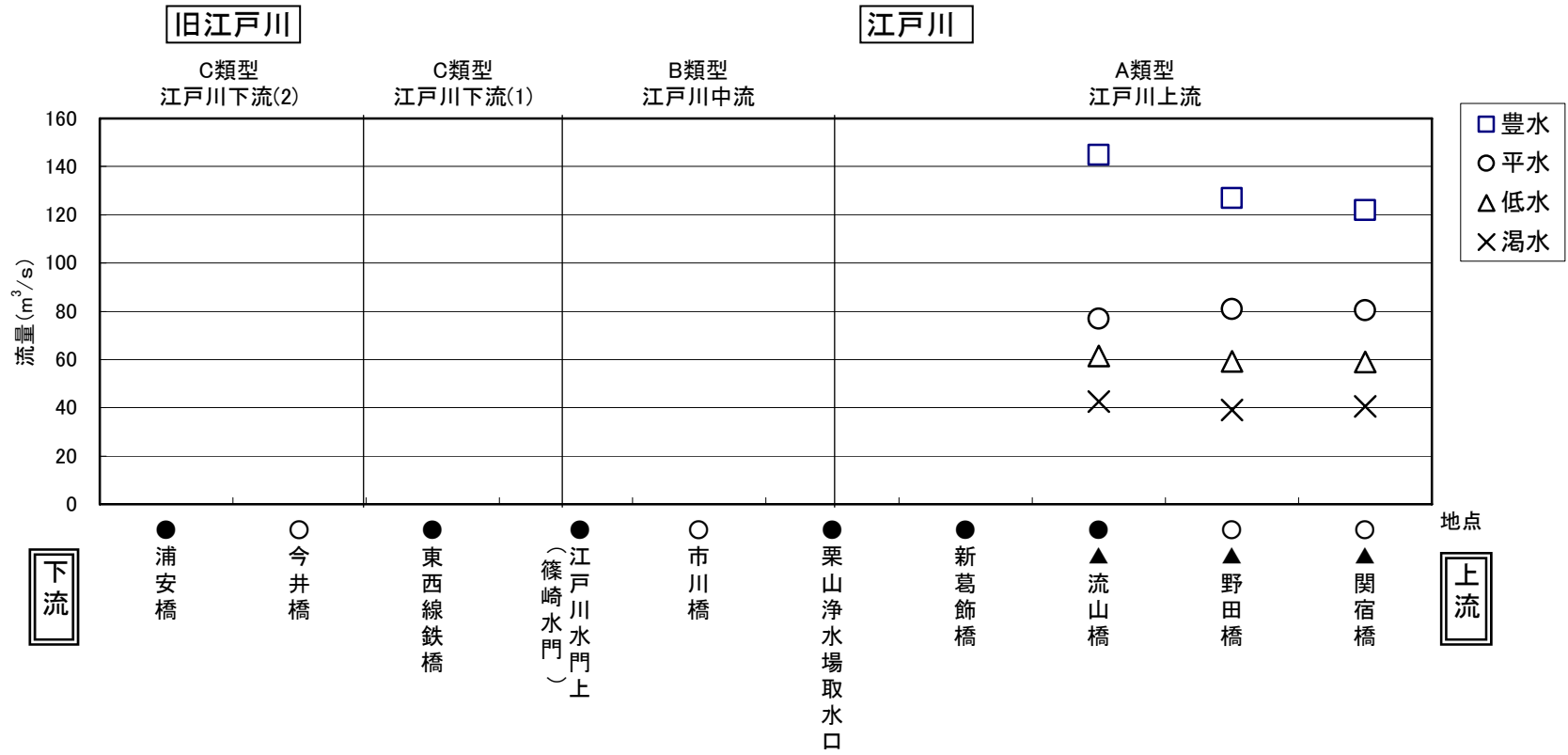
図3. 7 水温の水質縦断分布



出典：関東地方整備局「平成13年度 江戸川水系(江戸川)河川調査報告書」

緑色は、平成14年度「漁協アンケート」、オレンジ色は平成2・3年度「河川水辺の国勢調査」より

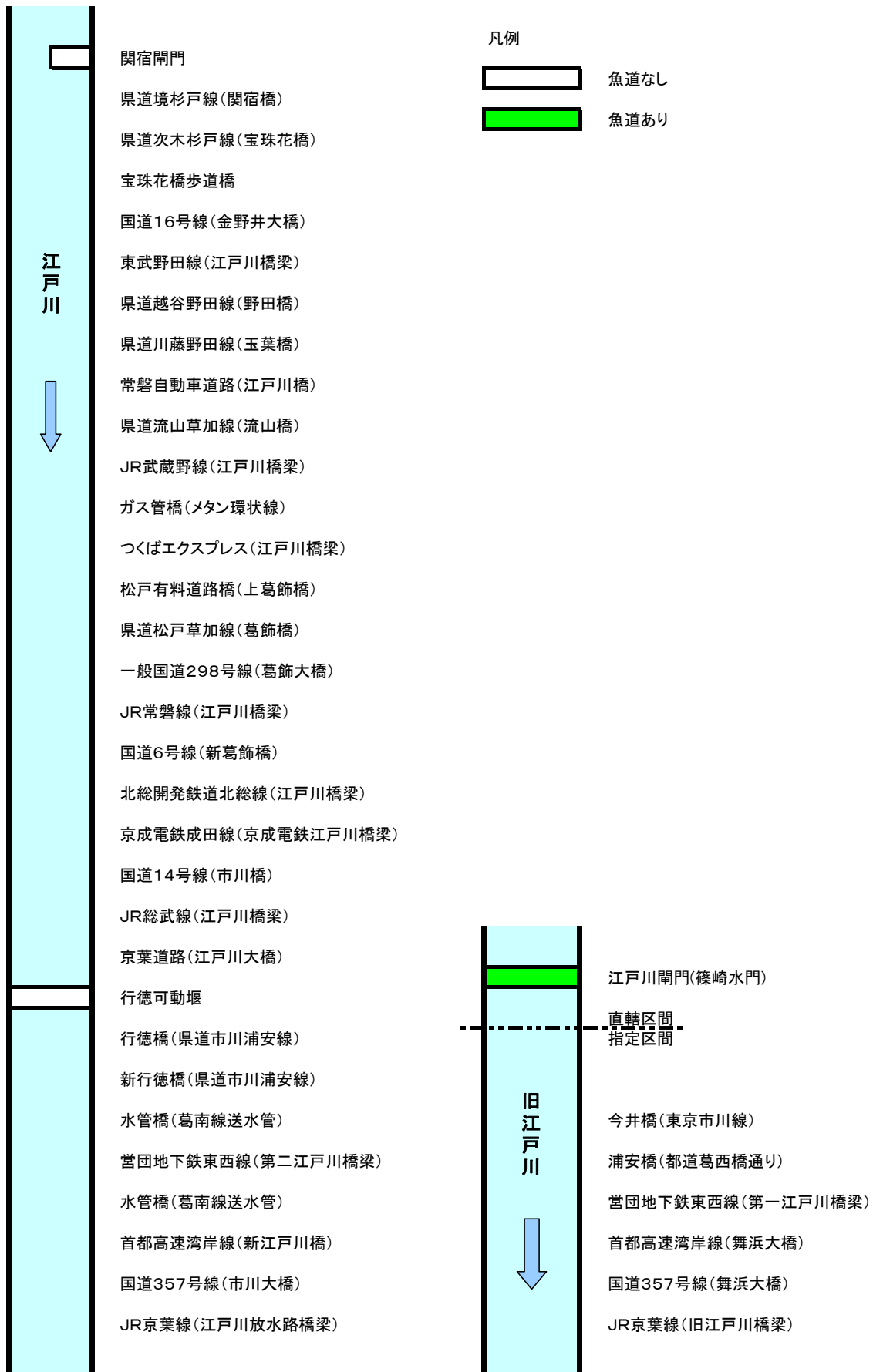
図3. 8 江戸川・旧江戸川【河床材料】



出典：流量年表（国土交通省河川局編,H14）

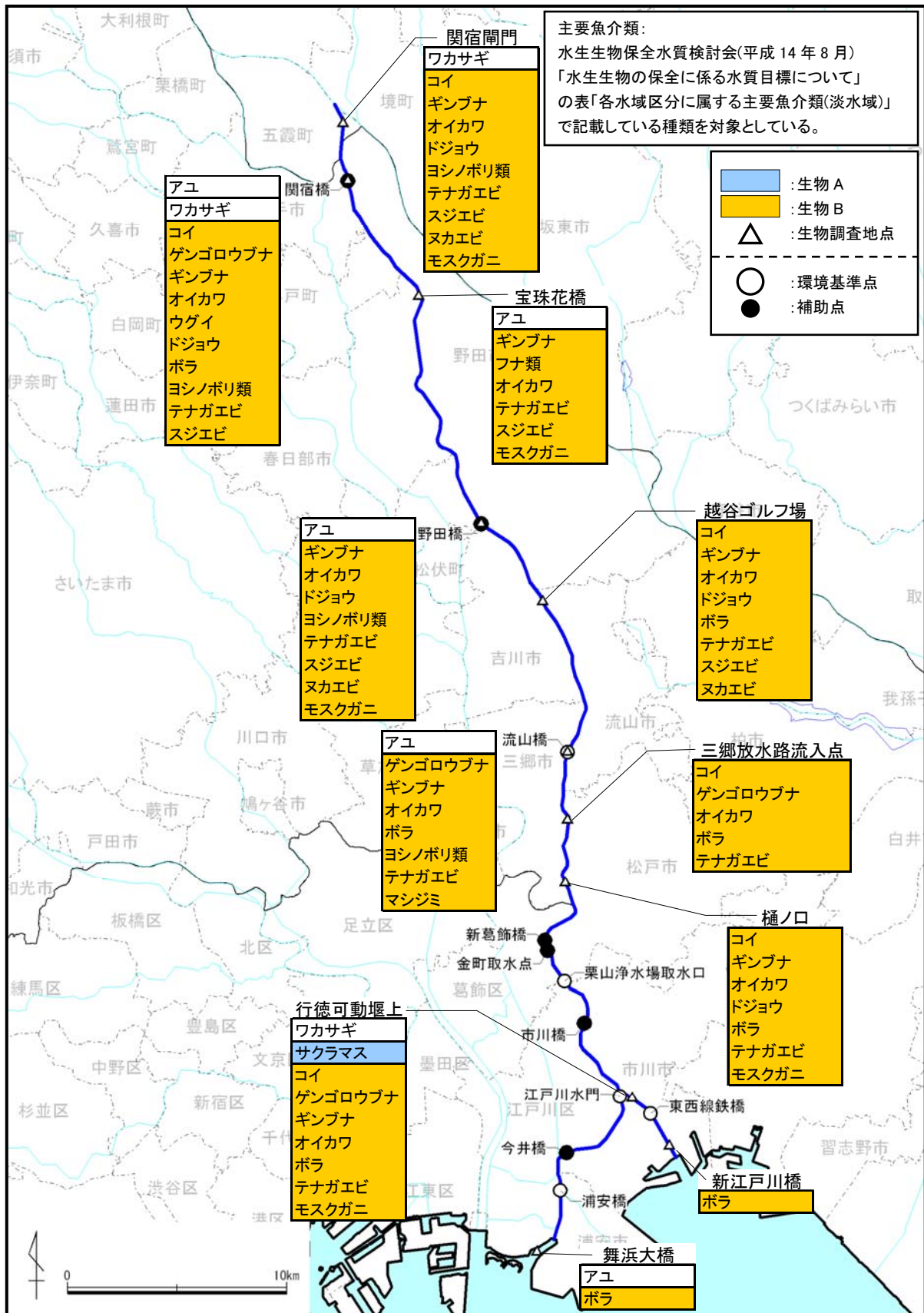
地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

図3.9 流量の縦断分布



出典：国土交通省資料等を基に環境省が作成

図3. 10 主な河川横断工作物



出典：国土交通省「河川水辺の国勢調査」他

図 3. 11 江戸川・旧江戸川【主要魚介類の確認状況】

表3. 2 江戸川・旧江戸川魚介類の確認状況（既存調査結果）

項目・分類・科・種名	調査地点										
	1 舞浜大橋	2 新江戸川橋	3 行徳可動堰上	4 樋ノ口	5 三郷放水路流	6 流山橋	7 越谷ゴルフ場	8 野田橋	9 宝珠花橋	10 関宿橋	11 関宿閘門
	調査時期										
	平成15年度 (8-10・3月)	平成15年度 (5-10月)	平成15年度 (5-10月)	平成15年度 (5-10月)	平成15年度 (5-10月)	平成15年度 (5-10月)	平成15年度 (5-10月)	平成15年度 (6-10月)	平成15年度 (6-10月)	平成15年度 (6-10月)	平成15年度 (6-10月)
生物A 魚類	サケ科	サクラマス									
その他 魚類	キュウリウオ科	アユ	○								
	キュウリウオ科	ワカサギ									
生物B 魚類	コイ科	コイ	○	○	○		○		○	○	○
	コイ科	フナ類(ゲンゴロウブナ)	○	○	○	○			○	○	○
	コイ科	フナ類(キンブナ)	○	○	○	○			○	○	○
	コイ科	フナ類(Garassius属の数種)	○	○	○	○			○	○	○
	コイ科	オイカワ	○	○	○		○		○	○	○
	コイ科	ウグイ								○	○
	シラウオ科	シラウオ									
	ドジョウ科	ドジョウ									
	ボラ科	ボラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ハゼ科	ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)									
甲殻類	テナガエビ科	テナガエビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	テナガエビ科	スジエビ									
	スズメエビ科	スズメエビ									
	イワガニ科	モクズガニ	○	○							
	シジミ科	マシジミ				○					
その他 魚類	アカエイ科	アカエイ	○								
	アナゴ科	マアナゴ		○							
	ニシン科	サツバ	○	○							
	ニシン目	ニシン目の一種	○								
	コノシロ科	コノシロ	○	○							
	カタクチイワシ科	カタクチイワシ	○								
	コイ科	タイリクバラタナゴ			○	○				○	○
	コイ科	ハクレン			○	○			○		
	コイ科	ウタカ			○					○	○
	コイ科	ハス					○	○		○	○
	コイ科	カウムツ					○				
	コイ科	ウグイ(Tribolodon)属の一種		○	○	○			○		○
	コイ科	タモロコ			○					○	○
	コイ科	ツチフキ								○	○
	コイ科	スモモロコ(Squalidus)属の一種								○	○
	アメリカナマス科	アメリカナマス			○		○	○		○	○
	トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	○								
	カダヤシ科	カダヤシ			○		○				
	フサカサゴ科	メバル		○							
	コチ科	コチ(マゴチ)	○								
	スズキ科	スズキ	○	○	○		○	○	○	○	○
	サンフィッシュ科	ブルーギル					○	○	○	○	○
	サンフィッシュ科	オオクチバス(ブラックバス)					○	○	○	○	○
	ヒイラギ科	ヒイラギ	○								
	タイ科	クロダイ									
	イソギンボロ科	ナベカ	○								
	ハゼ科	ウキゴリ属(Gymnogobius)属の一種			○	○		○	○	○	○
	ハゼ科	ウロハゼ			○	○		○	○	○	○
その他 甲殻類	ハゼ科	マハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ハゼ科	シモリマハゼ	○	○	○						
	ハゼ科	チヂフ(Tridentiger)属の一種	○								
	ハゼ科	ヒモハゼ		○							
	ハゼ科	ヘビハゼ		○							
	ハゼ科	ハゼ科の一種	○								
	タイワンドジョウ科	カマルチー									○
	ギマ科	ギマ		○							
	スズメエビ科	スズメエビ					○				
	サクラエビ科	アキアミ		○							
	テナガエビ科	ユビナガスズメエビ(フトビスズメエビ)		○							
	テナガエビ科	シラタエビ		○							
	エビシヤコ科	エビシヤコ		○							
	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ			○			○	○	○	○
	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ		○			○				
	イシガニ科	イシガニ		○							
	イワガニ科	イワガニ		○							
	イワガニ科	カサガニ		○							
	イワガニ科	クロベンケイガニ		○							
	イワガニ科	アハガニ		○							
	コブシガニ科	マメコブシガニ		○							
	クモガニ科	イッカククモガニ		○							
	スナガニ科	コツクガニ		○							
	スナガニ科	ヤマトサガニ		○							
	ワタリガニ科	ガザミ		○							
	ワタリガニ科	タイワカザミ		○							
	ワタリガニ科	オホカサミ		○							
	エンコウガニ科	マルバガニ		○							
貝類	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)									○
	タニシ科	ヒメタニシ									○
	ムシロガイ科(オビシロガイ科)	アラムシロガイ		○							
	オカミミガイ科	オカミミガイ		○							
	シジミ科	シジミ(Corbicula)属の一種					○				
	マルスターガイ科	オキシジミ		○							
	マルスターガイ科	アサリ		○							

※分類体系は山溪カラ・図鑑日本の淡水魚(山と溪谷社,1989)・学研生物図鑑魚類(学習研究社,1983)・新日本動物図鑑(中)(北隆館,1965)等を参考とした。

データの出自:調査機関・名称・年度

国土交通省、河川水辺の国勢調査、平成15年度(5~6・10月)調査

東京都、隅田川他8河川水辺の国勢調査(魚介類)利根川水系、平成15年度(8・10・3月)調査

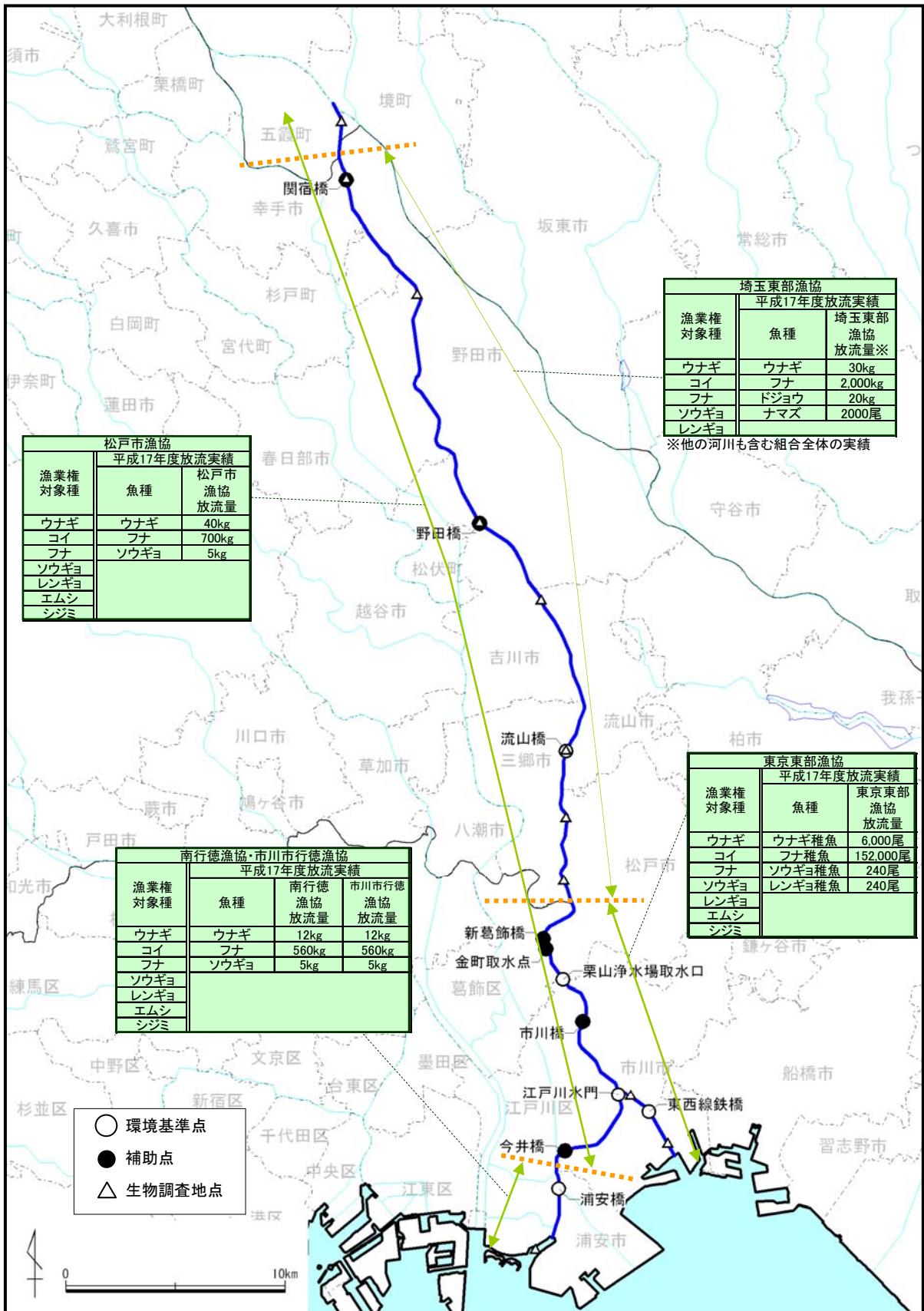


図3. 12 江戸川・旧江戸川【漁業権設定・魚類等放流状況】

表3. 3 江戸川・旧江戸川の魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理

	上流	中流	下流
魚介類の生息に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、アユ、コイ、フナ類があげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は全域に生息している。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、コイ、フナ類、ウナギ、ハクレン、エビ類、カニ類があげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は全域に生息している。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類としてアユ、コイ、フナ類、ウナギ、マハゼ、チチブ等のハゼ科、ハクレン、スズキ、ボラ、シジミがあげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は下流の全域に生息している。
産卵場・仔稚魚の成育場	<ul style="list-style-type: none"> フナ類は本流には産卵せず、用水路を利用して池などで産卵する。 	<ul style="list-style-type: none"> コイ・フナ類が本流で産卵できる場所はあまりない。支流の坂川などで産卵している。 	<ul style="list-style-type: none"> ハゼは旧江戸川の堰堤で浅くなっているワンドのような場所。
放流に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> コイ・フナ類・ウナギ・ソウギョ・ハクレンを放流している。 	<ul style="list-style-type: none"> コイ・フナ類・ウナギ・ソウギョ・ハクレンを放流している。 	<ul style="list-style-type: none"> コイ、フナ類、ウナギを放流している。
河川環境に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 上流部には大きな障壁はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 全域にわたって泥が多く、特に下流へ行くほど泥が堆積している 行徳可動堰（江戸川）・江戸川水門（篠崎水門：旧江戸川）があり、行徳可動堰は常時閉門している。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川水門（篠崎水門）で殆どの稚魚は止められてしまい、それ以上上昇することは難しい

※埼玉県農林総合研究センター、東京都環境局、江戸川エコセンター、東京都東部漁協、松戸市漁協、への平成 17,19 年度ヒアリング